

成長は無量大山

中学生「税についての作文」入賞おめでとう！

令和4年度中学生の税についての作文に、加藤千洋さん、猪子春瑛さんが入賞しました。おめでとうございます。

氏名	受賞名
加藤千洋	川島税務署管内納税貯蓄組合 連合会会長賞（特選）
猪子春瑛	吉野川・阿波租税教育推進協 議会会長賞（入選）



映画「ひめゆりの塔」を見て

○私がこの映画を見て強く心に残ったことは、戦争はとても怖いということです。道徳の時間に沖縄戦について書かれたものを読んで想像したことがありました。でも想像だけでは分かりにくいことがあったけど、映画を見てさらに戦争のこわさや苦しさが伝わってきました。痛々しい場面や目を背けたい場面があったけれど、実際に起きたでき事だから、きちんと見て受け止めないといけないと思って見ました。

私が最も忘れることができない場面は、壕で解散した後、集団自決をしようとしているところでした。つらくてどうしようもない気持ちが、見ていてとても伝わってきました。でも、みんなで支え励まし合って最後までがんばって生きぬく姿はカッコ良かったです。

この映画を見て改めて、命の大切さと二度と戦争を繰り返してはいけないと思いました。沖縄戦のことを伝えていく人がだんだんと少なくなっていく中で、今の私たちが戦争のことを知り、伝えていかなければならないと思いました。

○私がこの映画を見て一番印象に残ったのは、足をけがした戸口さんが、自分は仲間の迷惑になるからと言って、仲間といっしょに逃げなかったシーンです。戸口さんはまだ高校生で、私と年齢が近いです。私がもし戸口さんの立場だったら、逃げないという判断はできないと思います。一人になるのは怖く、アメリカ軍に見つかって殺される可能性があるからです。また、戸口さんの生きようとする気持ちに胸を打たれました。足をひきずりながら、手でカー一杯逃げている場面が強く印象に残っています。故郷に帰るために、今できることを最後までして、生きようとした戸口さんは本当に強い方だと思いました。

この映画を見て、国全体の考え方が原因で、たくさんの方が亡くなってしまったのではないかと思います。降伏すること＝恥で情けないことという考えがあったため、自ら手榴弾で亡くなる方、敵に降伏せずに亡くなる方が多かったのだと思います。降伏することによって助かった命もたくさんあったと思います。

これから、戦争を起こさず、戦争で命を落とす方がいない世の中をつかっていくためにも、沖縄であったことを学び、平和な世の中をつくるために、仲間といっしょに学びを深めたいです。

○この映画を見て思ったことは、今の戦争のない世界がどれだけ平和かということです。本当なら女学校の生徒は先生になれたのに、戦争のせいでなれなかったことを知って、とても悲しくなりました。自分になりたいものになれない、したいことができないのは私には考えられません。空から爆弾が落ちてこないのを確認しながら外に出たり、壕から壕へ移動するような生活を送っているのを見て驚きました。飛行機に対しても今の私たちは、飛行機に乗るのが楽しみだったり、空を飛んでいる飛行機を見て楽しい気持ちになったりします。しかし、戦争中、人々は飛行機を見て逃げていました。それほど恐ろしいものだったのだと思います。

私はこの映画を見ている時、胃のあたりがうずき涙が止まらなかったです。おそらく当時の女学生たちの気持ちや、その場所の環境を想像したからだだと思います。私が最も悲しかったことは、彼女たちがしたいことができません、なりたかったものになれず、会いたい人に会えないままだったということです。精神的にも、肉体的も限界を超えていたと思います。絶対に戦争はおきてはならないことだと思いました。

平和講話～長田勝哉さんのお話をきいて～



○戦争は何も生まないと思いました。何もしていない無関係な民間人を巻き込んでまで、勝利をする意味があるのかという疑問が私の中で生まれました。そもそも戦争での勝利をなぜ国の栄光にしようとするのか、なぜ勝利を強さにしようとするのかと思いました。沖縄に来るまでに、沖縄戦、ひめゆり学徒隊などたくさんのお話を学びました。過去のさまざまなことを知り、悲しい思いでいっぱいになりました。私たちは平和な世の中をつくるために、たとえ残酷で恐ろしいこ

とでも、知っていくことが大切だと思います。

○戦時中の人々とは違い、私たちの生活は爆弾に脅かされることなく、学校に毎日通い、友だちと笑顔で話すことができています。これから平和な社会を築いていくためにできることは、私たちが学ぶことだと、長田さんはおっしゃっていました。今、沖縄戦について学んでいることも、社会の平和につながる経験の一つだと思いました。私は、平和学習で学んだことを、家族に共有し平和を広げていきたいです。また、毎日の生活を大事に過ごしていきたいです。

○沖縄戦で20万人以上の方が亡くなったと聞きました。数字を聞いただけではあまり実感がわきませんでした。でも平和の礎で沖縄戦で亡くなった人の名前が書かれた石を見て一つの石にただでさえ多くの名前が書かれているのに、それが何個もあったので、とても驚いたし悲惨だと感じました。長田さんのお話では、食事は毎日いもみそ汁で、具はほとんどなく、虫のにおいがしていたそうです。トイレは穴をほってしていたそうです。これらを聞いた時は、今の自分が本当に恵まれているなあと思いました。

○これまで家族から硫黄島での陸上戦のことをきいたり、ひいじいちゃんが戦争を体験したこともあって、戦争の話はよく聞いてきました。しかし今回の話は戦地を兵として生きぬいた人ではなく、一人の民間人として太平洋戦争末期の沖縄という地獄を生きぬいた人の話でした。自分が今まで聞いて知っていた話ではなく、本当に紙一重の状況の中で、今日という一日を本当の意味で必死に生きてきたことが伝わってきました。今の平和のために、家族のために、命を燃やし尽くした人たちの死を無駄にしないためには、自分たちが学び、知り、色々な人たちに知ってもらうことが必要だと考えます。
(沖縄で書いた感想文の抜粋)



修学旅行を終えて

2泊3日の修学旅行を無事終えることができました。3年生の先生から感想を伝えます。

31担任 林 義真

Lost and Lost and Lost.

31副担任 板東照美

班長としての自覚ある行動と、班員のチーム力が発揮された修学旅行でした。

32担任 笠井大輔

待つべきは待ち 楽しむときは楽しみ 集まるべきときに 集まりましたね。

32副担任 片岡弘己

しっかり食べて、しっかり活動できましたね。食べることは大切です。



マイセルフ沖縄賞3年1組	加藤千洋	多田愛菜	結城瑛穂	吉本愛結花
マイセルフ沖縄賞3年2組	石山陽菜		坂野紅巴	山西縁葉
ビーチフラッグ賞	1位 岡澤拓海	2位 猪子春瑛	3位 阿部花南	
トリオで盛り上げたで賞	猪子春瑛	岡澤拓海	山本悠真	



1月の主な行事予定

10日(火) 始業式	20日(金) 漢検
11日(水) 第3回基礎学力テスト	24日(火) SA 31理 32数
13日(金) 英検(一次)	25日(水) SA 31社 32国
17日(火) SA 31国 32英	27日(金) SA 31英 32社

保護者のみなさまへ

先日の修学旅行では、それまでの準備や送迎等お世話になりました。子どもたちは友だちとの友情を深め、集団行動のルールを守り、この旅行を通してまた一つ成長できたように思います。

今年も本校教育活動に対し、いろいろとご協力ありがとうございました。三学期もよろしくお願ひします。それでは、よいお年をお迎えください。

3年職員一同



